

## 第15期 第4回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成29年3月24日（金）午後6時30分～午後8時30分
- 開催場所 小平市役所 6階 601会議室
- 出席者 椎名委員長、山田副委員長、森田委員、市川委員、信山委員、田中委員  
白井委員、加藤委員、菊地委員、小林委員、棚井委員、千葉委員、西成委員  
(順不同)
- 傍聴人 1名
- 議題 (1) 第15期小平市緑化推進委員会の検討課題について  
(2) その他
- 配付資料 (1) 第15期小平市緑化推進委員会1～3回会議発言概要  
(2) 自然災害の観点から見た小平市  
(3) 「小平市人口推計報告書（平成27年国勢調査による）」抜粋

### 会議の要旨

#### 委員長

まず事務局より、資料の確認及び説明をお願いします。

事務局より、資料の確認と資料（2）及び（3）について説明があった。  
説明後、次のとおり質疑があった。

#### 委員

今回出された人口推計について、予測される人口が少なすぎるように感じる。調べたところ、平成23年から平成29年までで人口が1万人増えており、現在も市内で戸建てやマンションが増えている。そうした中では、この推計よりも人口は増えると思われるので、20万人都市の緑化ということを今回の1つの柱にしてもいいのではないか。

#### 委員長

この推計は、ある種共通した数式にあてはめるような形で出されたものと考えられるので、市場価値など、小平市の特徴を拾いきれていない部分もある程度はあるだろう

う。例えば、小平市では地価が都心に比べ高くないということもあり、民間の保育園がここ最近急増している。また、資料にもあるように市内に傾斜が少ないことから、自転車での生活がしやすい。こうした点が人口の増減に与える影響もあるだろう。そういう意味では、実際の人口がこの推計を上回るということも十分に考えられるので、期待も込めて20万都市の緑化ということで検討をしてもよいだろう。

資料の地震災害についてだが、地域危険度を判定するにあたり、立川断層は要因に入っているのか。

## 事務局

地域危険度の判定にあたっては、すべての地域において地震の強さなど同じ条件で設定し、建物構造、火気器具等の使用状況、道路等の整備状況や災害時活動困難度などから評価をしているため、立川断層は要因には入っていない。

## 委員

市区町村別平均危険度について、平均してしまうと見やすくはあるが、地域毎の特質など見えなくなる部分もあるのではないか。

## 事務局

この表はあくまで自治体の比較を目的に作成したものであり、出典もとのデータでは町丁目ごとのランクが公表されている。

委員長より、資料（1）について説明があった。

## 委員

こだいら観光まちづくり協会が作成した冊子「小平にこないか？」が非常に人気で、この冊子を持って都内から訪ねてくる人もいる。

## 委員

これは、こだいら観光まちづくり協会の方で、コンペをしたうえで出版社と共に作成した。表紙の色や人選など細部にまでこだわり、昨年10月頃から今年の1月頃まで編集作業を行った。2万部作成し、現在市役所などには置いているが、これから配布箇所を広げていく。また、ポータルサイトも作成し、小平らしさを動画などを通じて紹介している。

## 委員長

配布する場所については、外から人を呼び込むという趣旨であれば、鉄道駅に置くのは双方にとって有益だろう。冊子の発行に関してもそうだが、財源について自主的

にどこかから持ってこられるような仕組みについても検討する必要があるだろう。

#### **委員**

先日観光まちづくり協会で開催したまち歩きイベントの際には、ブリヂストンから自転車の寄付があり、これを上位入賞品として贈呈した。

#### **委員**

資料（１）について、無電柱化のことでと街路樹のスペースでの生物多様性のことも載せるべきだろう。

#### **委員**

西武鉄道の国分寺から一橋学園の線路沿いは、サクラが切られてしまって補植がされていないが、ツツジやアジサイのような大きくなならないものでも構わないので、補植について協力を得られないか。

#### **委員長**

京王井の頭線では沿線にアジサイを植えているので、西武鉄道でも可能ではないか。小平に人がくれば鉄道会社の収益にもつながるので、当然やるべきだろう。少子化による収益減が想定される中では、市のためにも西武鉄道のためにも、そういった取組を進めて従来のパイをいかにして確保するかということを考えなくてはならない。緑化の取組が双方によい影響を与えるという意味では、例えば、独立行政法人は国からの評価項目の一つとして地域貢献があるが、国立精神・神経医療研究センターには広大なみどりがあるので、これを緑の質の向上や生物多様性への貢献につなげることは有益だろう。

#### **委員**

グリーンロードが喜平橋と桜橋で分断されているという件で、桜橋の方は改善がされた。一角に石の椅子や橋の由来が書かれた看板が設置され、きれいになっているが、喜平橋の方はまだである。

#### **委員**

狭山・境緑道はサクラ並木が素晴らしいが、枯れたり苦情があったりするとすぐに伐採されてしまい、近年衰退しているのを感じる。このままいくと、近く現在の様子は失われてしまうのではないか。都の緑道であるが、市と都の連携や市民の守っていくという意識が必要であろう。

#### **委員**

今後若者の人口が減り、高齢者の人口が増えていくので、当然税収も減少していくことが予想される。そのため、市の予算をあてにして緑化施策を考えるのには限界があると思われる。つまり、生産等により収益をあげて運営費に充てられるシステムを考えなければならない。

例えば、市の公共用地にブルーベリーを植えて販売をし、これを原資に事業を拡大していくような仕組みが必要なのではないか。

## 事務局

以前、花小金井南口のロータリーにブルーベリーを植え、ボランティアの方に世話をしてもらい、収穫したものについてはボランティアの方の自由にして頂くという取組を行った。しかし、収穫が夏場の炎天下の中での作業となることから、断られてしまった。やはり管理をして頂くのであれば、きちんとした団体でなければ難しい面がある。

## 委員長

基金のような組織を作って、原資として、東京都の思い出ベンチのような形で寄付を募ったり、ブルーベリーに限らず収穫物などによる収益事業を実施するという方法はあるかもしれない。方法はいろいろあると思うが、いずれにせよ、市役所では出来ないようなことを、市民がみどりに原資を求めて事業を行うということはいいと思う。

## 委員

新築の戸建てや、大規模なマンション開発に対して市が許可をする条件に、緑化率の制限はあるか。

## 事務局

東京都の緑化計画の基準と同じ条件を求めている。ただし、戸建てについては制限がないので、生垣の造成などお願いという形で行っている。

## 委員

戸建てについては、緑が全くないようなところも多い。宅地事情を考えると木を植えたりすることが難しい面もあるかとは思いますが、花を植えるたりするだけでも緑化率や生活の潤いの面で大きく違うと思う。そうした機運を高めていくことも大切だと感じる。

## 委員

戸建てでも、敷地内に降った雨は敷地内に浸透させなくてはならないというような規則を作れば、必ず土の部分が出てくると思うが、市の指導でそういったことはでき

ないか。

### **事務局**

開発事業については、雨水浸透ますの設置義務がある。また、戸建て住宅については雨水浸透ますの設置助成事業を市で行っており、これをPRすることにより地下水の涵養に努めている。

### **委員長**

「小平にこないか？」に、観光まちづくり振興プランのキャッチフレーズである「都会から一番近いプチ田舎」が出てこないのは気になるところである。キャッチフレーズとして設定したからには、それにそって邁進していくべきだろう。

今回出た意見も踏まえて、道筋のようなものを次回作ってくる。

以上